

I 研究の概要

1. 研究の背景と目的

今回の学習指導要領改訂において「生きる力」を育むためには、言語活動の充実により思考力・判断力・表現力の育成が大切であり、とりわけ肢体不自由のある児童生徒においては、表現する力の育成が重要であることが示された。肢体不自由のある児童生徒に対する各教科等の指導に当たっては、障害による経験の不足や障害特性から生じる学びにくさを踏まえた配慮や工夫が必要である。しかし、児童生徒の障害の重度・重複化の傾向が顕著な特別支援学校（肢体不自由）においては、対象の児童生徒が少数であるために教科指導のノウハウが継承されにくい状況にある。一方、小・中学校の特別支援学級（肢体不自由）については、この10年間で在籍する児童生徒数が約2倍に増えているが、特別支援教育制度になってからの教科指導の実情については十分に把握できていない状況にある。

そこで、本研究では、こうした状況を踏まえ以下のことを目的とした。

- (1) 特別支援学校（肢体不自由）ならびに小・中学校特別支援学級（肢体不自由）を対象として、教科指導において特に表現する力の育成に関わる実情と課題を把握する。
- (2) 表現する力を育成するために有効と思われる教科指導における障害特性に応じた配慮・工夫を明らかにした上で、実践事例を通して有効な工夫を示す。

2. 研究の方法

(1) 文献等による研究

- ・言語活動の充実、表現する力の育成に関する資料の収集し、整理・分析する。
- ・肢体不自由のある児童生徒の教科指導に関する先行研究の収集し、整理・分析する。

(2) 特別支援学校（肢体不自由）の教員への調査

- ・特別支援学校（肢体不自由）に勤務する教員を対象に質問紙調査とインタビューにより、肢体不自由のある児童生徒への教科指導に係る現状と課題に関する情報を収集し、整理・分析する。

(3) 特別支援学級（肢体不自由）の教員への調査

- ・全国公立小・中学校に設置する特別支援学級（肢体不自由）の学級担任を対象に質問紙調査を実施し、肢体不自由のある児童生徒への教科指導に係る現状と課題に関する情報を収集し、整理・分析する。
- ・特別支援学級（肢体不自由）を訪問し、情報を収集し、整理・分析する。

(4) 専門家による協議

- ・「肢体不自由のある児童生徒の障害特性」及び「肢体不自由のある児童生徒の教科指導」について協議する。

(5) 上記(1)、(2)、(3)、(4)を受けて、以下の二つの視点での課題の整理、検討

- ① 肢体不自由の障害特性が及ぼす学習の困難さを軽減する手段・方法の工夫
- ② 言語活動を重視した教科指導における配慮・工夫—国語科を中心に—

3. 研究活動（経過の概要）

（1）平成22年度

研究者による文献等の研究、調査データの分析と定例の協議（1回／1週・90分）を行い、加えて以下の取組を実施した。

- ① 第1回研究協議会（H22. 6. 17）
以下の内容について研究協力者と協議を行った。
 - 1) 研究の趣旨及び概要について共通理解を図る。
 - 2) 研究課題について協議
 - ・ 肢体不自由児の障害特性について
 - ・ 肢体不自由のある児童生徒に育みたい表現する力について
 - ・ 特別支援学校（肢体不自由）での教科指導にかかる課題
- ② 研究協力機関、パートナー校訪問
教科指導の取組について、実地調査による情報の収集を行った。
- ③ 特別支援学校（肢体不自由）教員への調査
質問紙とコンテンツマネジメントシステム（CMS）であるネットコモンズを使って、14校、126名の教員に調査を実施した。
- ④ 小・中学校特別支援学級（肢体不自由）教員への調査
 - 1) 全国小・中学校肢体不自由特別支援学級の指導に関する調査（H22. 11月）
 - 2) 特別支援学級（肢体不自由）の実地調査
 - ・ 高知県土佐市立宇佐小学校
 - ・ 青森県鱒ヶ沢町立赤石小学校
 - ・ 長崎県長崎市立桜町小学校
 - ・ 東京都中野区立丸山小学校
 - ・ 山形県山形市立第一小学校
 - ・ 福島県福島市立第二中学校
- ⑤ 第2回研究協議会（H22. 12. 17）
以下の内容について研究協力者と協議を行った。
 - 1) 特別支援学校及び特別支援学級の教員を対象に実施した調査の結果について
 - 2) 実践事例の紹介について

（2）平成23年度

研究者による文献等の研究、調査データの分析と定例の協議（1回／1週・90分）を行い、加えて以下の取組を実施した。

- ① 第3回研究協議会（H23. 5. 23）
以下の内容について研究協力者と協議を行った。
 - 1) 研究の進捗状況の確認と今後の課題について
 - 2) 研究成果のまとめ方について
- ② 研究協力機関、パートナー校訪問
各機関の取組について分析し、工夫点と課題を明確にするための検討を各機関の担当者と行った。

③ 日本特殊教育学会・第49回大会にてポスター発表

「全国小・中学校肢体不自由特別支援学級の指導に関する調査」の概要について発表した。

(長沼俊夫 徳永亜希雄 金森克浩 齊藤由美子 笹本健 小田亨)